

財団法人大阪湾ベイエリア開発推進機構 平成19年度自主調査

「なぎさ海道」推進事業

(「なぎさ海道」とは)

「なぎさ海道」は、1991年(平成3年)4月、大阪湾ベイエリア開発推進協議会によって策定された「大阪湾ベイエリア開発整備のグランドデザイン」の8つのシンボルプロジェクトのひとつとして位置づけられたものである。

1997年(平成9年)3月に、(財)大阪湾ベイエリア開発推進機構では、〈人・ふれあう・海〉をテーマとする「なぎさ海道」推進マスタープランを策定し、「なぎさ海道」を次のように定義した。

「なぎさ」とは、多様な生物が生息し、豊かな自然が広がっている波打ち際を指す

「海道」とは、人、モノ、情報が行き交い、様々な人間活動が展開されている海岸に沿った道や地域を意味する

「なぎさ海道」とは、このふたつが重なり合うことで生まれる、人と海とが豊かに触れ合う魅力ある海辺空間の象徴。

(目的)

「なぎさ海道」推進事業は、「広報」「交流・連携」「調査・研究」の多岐にわたる息の長いソフトの取り組みを中心に、「なぎさ海道」の実現推進を目指し、自然環境の保全と持続可能な開発を基本に、社会経済基盤の整備を進めつつ、人と海とが豊かに触れ合うことを目指し、海辺のみならず、海、河川、内陸、さらには関西の持つ豊かな歴史的・文化的資源と連携しながら、海辺の魅力をPRしていき、大阪湾ベイエリアの新たな可能性を創造することを目的としている。

(平成19年度事業概要)

1. 会議の開催

- | | |
|-----------|---------------------|
| (1) 幹事会 | 平成19年5月15日(火) |
| (2) 代表委員会 | 平成19年5月17日(木)(書面開催) |
| (3) 総会 | 平成19年6月19日(火) |

2. 「なぎさ海道」資源登録

平成19年度は、17件の新規登録・12件の抹消登録に伴い、計565件となった。

また、登録内容の整理に併せて「なぎさ海道」登録資源のホームページ(<http://www.o-bay.or.jp>)のデータベースを更新し、「人と海とが豊かにふれあう魅力ある海辺空間」の象徴として広報し、「なぎさ海道」の普及に努めた。

3. 「なぎさ海道」ウォーク

地元自治体やNPO、電鉄会社(JR西日本・南海電鉄・阪神電鉄・山陽電鉄)等と連携して、登録資源と地域の名所をめぐる「なぎさ海道」ウォークを実施し、多くの人々に大阪湾ベイエリアの魅力を再認識してもらい、「なぎさ海道」の普及を図った。

平成19年度は、合計34コースを実施し、総数15,476人の参加者があった。

なぎさ海道ウォーク年度別実績

年度	JR		南海・阪神		南海		阪神		山陽		その他		計	
	開催回数	参加者数	開催回数	参加者数	開催回数	参加者数	開催回数	参加者数	開催回数	参加者数	開催回数	参加者数	開催回数	参加者数
12	1	300											1	300
13	15	2,337											15	2,337
14	13	2,205	2	1,327	3	795	5	7,090	6	5,885	4	614	33	17,916
15	14	2,176	3	3,031	4	3,082	4	5,209	4	3,499	1	95	30	17,092
16	12	1,932	3	4,270	9	3,166	7	5,002	4	3,200	1	71	36	17,641
17	12	1,974	3	2,701	4	1,889	7	6,197	2	2,116	3	186	31	15,063
18	17	2,640	3	1,633	7	2,490	6	4,486	2	1,620	4	301	39	13,170
19	15	1,901	3	2,201	6	2,264	7	8,143	1	734	2	233	34	15,476
計	99	15,465	17	15,163	33	13,686	36	36,127	19	17,054	15	1,500	219	98,995

(注)JRウォーク開催数には中止を含む (H14=2回、H15=1回、H16=2回、H17=1回、H19=1回)

(1) JR西日本

JR西日本の協力を得て、自治体、NPOの主催により「なぎさ海道」ウォークを実施し、チラシ、ポスターになぎさ海道のシンボルマークを掲載した。

JR西日本の「なぎさ海道」ウォークでは合計15コース、総数1,901人の参加者があった。



JR ハイキングパンフ(秋)



4/29 海南市ウォーク



5/5 泉佐野市ウォーク



なぎさ海道ウォークチラシ



10/6 高砂市ウォーク



11/3 神戸市垂水区ウォーク

(2) 南海、阪神、山陽電鉄

各電鉄会社が主催する臨海部を歩く「なぎさ海道」ウォークを後援し、ハイキングの案内等に「なぎさ

海道」シンボルマークを掲載した。実施回数はそれぞれ、南海・阪神電鉄共催が3コース、南海電鉄主催が6コース、阪神電鉄主催が7コース、山陽電鉄主催が1コースである。



南海・阪神なぎさウォーク

5/19 泉大津市ウォーク

11/23 神戸市ウォーク

(3) その他

阪神高速道路株式会社主催の「ドライブ&ハイク」、財団法人泉佐野市公園緑化協会主催の「バイエリアの緑★再発見」を後援し、案内に「なぎさ海道」シンボルマークを掲載した。



5/27 ドライブ&ハイク(天保山コース)



10/28 バイエリアの緑★再発見

4. 「なぎさトレイル」マップの作成・配布

「なぎさ海道」登録資源等を活用した、誰もが、安全・快適に利用できる海辺の路「なぎさトレイル」の提案を目的に、平成13年度から一般市民向けトレイルマップを作成・配布してきたが、昨年度は由良町(和歌山県)のマップを作成した。これで作成箇所数は計11カ所となった。



5. 「なぎさ海道」市民活動の支援

平成18年度に引き続き、「なぎさ海道」市民活動助成金事業を行い、「なぎさ海道」の趣旨に沿って市民団体等により行われるフォーラムやイベント開催等の活動に対し、必要な経費の一部を助成した。

応募件数は、平成18年度と比べ3件減の14件であり、助成件数は5団体であった。

区 分	応募件数	助成件数	助成額(千円)
17年度	14	6	1,981
18年度	17	6	2,000
19年度	14	5	1,686

また、平成18年度「なぎさ海道」市民活動助成団体報告会を平成19年度の「なぎさ海道」推進会議総会終了後、同日に開催した。

- 1 開催日 平成19年6月19日(火)
- 2 開催場所 天満研修センター 605会議室
- 3 報告団体 6団体



成ヶ島を美しくする会



釣り文化協会



天神崎の自然を大切に
する会



日本ウミガメ協議会



正しい歩き方
推進実行委員会



近木川流域自然
大学研究会

6. 「なぎさ海道」の広報

(1) 広報誌、ホームページの活用

「なぎさ海道」に関する情報を、(財)大阪湾ベイエリア開発推進機構の広報誌「O-BAY」やホームページに掲載するなど、「なぎさ海道」の積極的な広報活動を推進した。

(2) イベント等における「なぎさ海道」パネル展示等

「なぎさ海道」に関連するイベントにおいて、パネル展示やパンフレットの配布等を行い「なぎさ海道」の紹介に努めた。

行事名：「大阪湾再生シンポジウム」

期 間：平成19年12月15日（土）

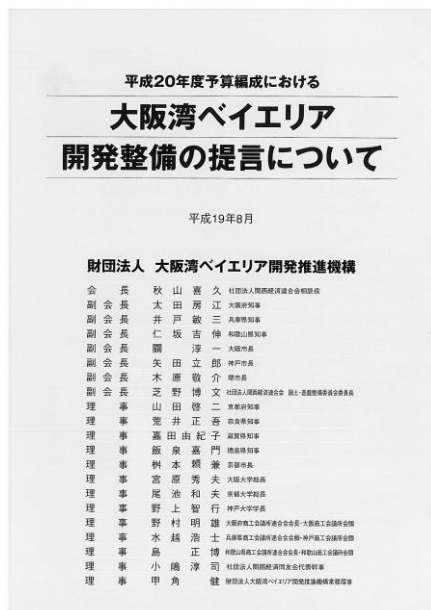
場 所：大阪府立国際会議場



7. 「なぎさ海道」に係る政策提言

平成20年度予算編成における「大阪湾ベイエリア開発整備」の提言として、「なぎさ海道」におけるパブリックアクセス整備の充実を提言した。

提言事項： 人々が海辺へ至るための道路等の手段と、その海辺で憩い遊ぶことができるような海辺環境を包括した概念であるパブリックアクセスを早急に整備するため、密接に関わりを有しているなぎさトレイルやなぎさ拠点及びそこに至る道路が一体的に整備されるよう、補助制度をはじめとする支援の充実を図ること。



9 「なぎさ海道」におけるパブリックアクセス整備の充実

快適な都市環境づくり等の観点から平成3年に策定された「大阪湾ベイエリア開発整備のグランドデザイン」のシンボルプロジェクトとして提唱された「なぎさ海道」については、当財団において平成9年に「なぎさ海道推進マスタープラン」を策定し、行政と市民参加のもと推進してきたことである。
また、平成12年に策定された近畿圏基本整備計画（第5次）でその推進が明示されており、「21世紀の国土のグランドデザイン」においては、パブリックアクセスの確保を図ることとされている。しかしながら、海辺の遊歩道や海辺に至る道路の整備に多大な経費を要することから進んでいないのが現状である。
このような動向を踏まえ、以下のとおり実施すること。

提言事項

人々が海辺へ至るための道路等の手段と、その海辺で憩い遊ぶことができるような海辺環境を包括した概念である「パブリックアクセス」を早急に整備するため、密接に関わりを有しているなぎさトレイルやなぎさ拠点及びそこに至る道路が一体的に整備されるよう、補助制度をはじめとする支援の充実を図ること。

